

男女共同参画ニュース 第2号

男女共同参画推進に関するアンケート(2017年11月～12月実施)へのご協力をありがとうございました ～50.8%(281人)の方々から回答をいただきました～

回答者は、教員 52.7%、事務職員 47.3%とほぼ半数ずつでした。例えば、「子育てや介護と仕事を両立するために何が重要だと思うか」の設問に対しては、「理解ある職場の雰囲気」(61.7%)、「急な休みがとれるよう、仕事内容を複数で共有する職場体制」(58.1%)が最も多く、それぞれ6割ありました。また、3割近い方々(27.4%)から、「仕事や子育ての悩みを抱える当事者が出会える場がほしい」などの提案を含む、丁寧な自由記述もいただいています。現在、男女共同参画運営委員会で内容をまとめており、今年度中を目途に報告書として発表します。

KAC(2017年11月29日)及びKPC(同12月6日)で、ランチミーティングを開催しました

両キャンパスで開かれたランチミーティングでは、あわせて30人が参加。昼食を持ち寄って、「男女共同参画のロールモデルを身近に学べる機会を」「学生たちへの男女共同参画教育の充実を」「休業取得者の周囲の人のフォローの必要」等活発で率直な意見交換が行われました。

子育てランチミーティングにご参加ください

～子育てについて語り合いませんか。出入り自由ですので、少しの時間でもぜひどうぞ。～

【KPC】2月5日(月) 11:50～13:40
中会議室(A号館4階)

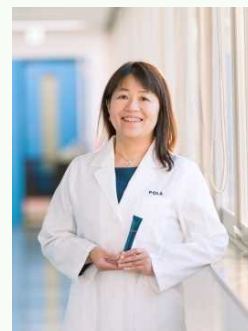
【KAC】2月13日(火) 11:50～13:40
45会議室(4号館5階)

本学薬学部卒業生が「ウーマン・オブ・ザ・イヤー2018」大賞を受賞

日経WOMAN(日経BP社)が選ぶ「ウーマン・オブ・ザ・イヤー2018」に本学薬学部出身のポーラ化成工業研究企画担当執行役員の末延則子さんが選ばれました。毎年この賞は、常識を超え新しい価値を創造した女性に贈られています。

末延さんは、昨年発売された世界初のシワ改善効果のある化粧品「リンクルショット・メディカル・セラム」の開発を、強力なリーダーシップで地道に推し進め成功させたことが評価され、2018年の大賞に輝きました。

(薬学部 助教 北條恵子)



中国の女性科学者政策について

科学技術における男女共同参画が推進されています。女性ノーベル生理学・医学賞受賞者を輩出した中国への関心が高まっており、参加させて頂いている科研費の調査で昨年末、中国科学院、北京工業大学を訪問し、お話を伺う機会を得ました。「男子理系、女子文系」という枠組は中国では過去の



(写真 中国科学院物理研究所にて)

もの。理工系修士課程の女子学生数は男子を上回り、全国の科学技術者総数に占める女性比率もすでに4割。次なる目標は次世代の女性リーダー育成だと語る元第三世界女性科学組織主席の力強いお言葉が印象的でした。

(グローバル・コミュニケーション学部 教授 大濱慶子)

男女共同参画運営委員会で、男女共同参画推進計画の検討が進められています

男女共同参画運営委員会では、第2回(2017年12月18日)、第3回(2018年1月15日)会議を開催しました。男女共同参画推進に関するアンケート結果やランチミーティング等のご意見を踏まえ、今年度中に策定する男女共同参画推進計画について、メールでの意見交換も重ねながら議論を進めています。

